

夏開幕！灼熱の室堂-スゴ-薬師岳-折立（個人山行）

（報告）MT

◎期日：2021年7月16日～19日

◎メンバー：MT、MT友人（1名）

7月半ばに職場の同僚Sちゃんと北アルプスに行くことにした。Sちゃんはこの数年、急速に登山に傾倒し、昨年はソロで槍ヶ岳にも行った新進気鋭の若手だ。送ってくれた候補の中にあっただ今回のコース、最初は無理だと思ったが、地図をじっと睨んでいるうちに、最近眠っていた山どころが目覚めてきた。Sちゃんも賛成してくれ、さっと全ての予約を整えてくれた。この時は2泊3日の予定だった。

◆Day1

前夜の登山夜行バスで東京を出て、朝7時に室堂に到着。北陸はこの2日前に梅雨明けを迎えた。青い空に太陽と雲が輝き、ヘリが山小屋への物資輸送のため右に左に飛んでいる。足元には分厚い雪渓



があちこちに残る一方、ハクサンイチゲ、チングルマ、コイワカガミなど、夏のお花畑が早くも展開中。まさに夏山シーズンがスタートしたのだ。良い時に来た。

間もなく富山大学立山研究所の分岐に着いた。ここで、大きな荷物を背負った60代くらいの男性に話しかけられた。13日間かけて上高地まで歩く予定で、今日は4日目。前日まで剣岳や立山を巡っていたそうだ。彼は私たちより少し先に発ち、たちまち姿が見えなくなった。この方

とは、3日間、同じ宿を経由しながら歩くこととなる。

少し先で大きな雪渓をトラバース。照り返しでサングラスしていてもまぶしい。急な下り斜面では、真っ黒に日焼けした男性たちがスコップを手に、汗だくになって雪を切り、階段状に整えてくれていた。おかげで苦勞せず通過。感謝です。

雪渓と雪渓の間にはお花畑。ミヤマキンポウゲやミヤマキンバイの黄色がかわいらしい。楽しく歩いているうちに獅子岳まで来た。行く手に今夜泊まる、赤い屋根の五色が原山荘が見える。なーんだ、すぐそこだ、と思ったのが大間違い。その手前にあるザラ峠までの下り道は、行けば行くほど傾斜がきつく、尖った不安定な大



小の石が敷き詰められた、この旅最初の難所だった。標高差366m。一步一步気が抜けずスピードが出ない。加えて昨年来、何度か膝がおかしくなって、思い切って行けないのだ。この下り、全行程の中のほんの一部だったため気にも留めておらず、自分の準備不足なのに騙されたような気がして疲れてしまった。ガラガラとした石の道は、樹林帯以外のほとんどで、3日後に下山するまで続いた。

すっかり消耗して辿り着いたザラ峠は日陰が全くなく、座っても休んだ気がしない。最後の登りを経て、ようやく今日のゴールとなる山荘に着いた。途中で道を譲ってくれたグループを率いていた地下足袋のガイドさんに「明日はどこまで行くか？」と聞かれ、「できれば薬師岳山荘まで」と答え、「おう、元気だな！」と笑顔で返してくる。この笑顔には、本当にそこまで行けるかな！という含みも感じる。なぜなら、私たちも本当に行けるのかな、と思っていたから。先程の長旅の男性はとっくに山荘入りしており、外の地面に寝転がって昼寝していた。

山荘では個室をもらえ、会話しやすくホッとした。夕食後、翌日の行程を再検討する。長い。全行程26.6km。初日たったの6.6km。2日目は薬師岳を越え、薬師岳山荘まで11.9km。長いうえに高低差が激しすぎる。ざっくりと500m近い下りがあり、800m一気に登って、また200mくらい下る。これは現実的な行程か？初日が思っていた以上に大変で、弱気になった。一気に行ければいいが、もし無理だったら途中のスゴ乗越小屋泊、翌日に太郎平小屋までとなる。

先程のグループは黒部湖に下りて船に乗るそうだ。唯一のエスケープルートだ。検討し始めたが、このルートは全く事前調査していなかったため、かえって不安を感じボツにした。

行けるかどうかかわからないが、とにかく可能性だけは残そうということで、翌朝3時出発と決めた。が、なかなか眠れなかった。

◆Day2

私の準備が遅く、結局3時半出発。4時過ぎに山の端が赤く焼けてくる。私たちより少し早く出発した、今日のうちに太郎平まで行くという健脚男性が夜明けの山を撮影していた。

最初のピーク鳶山はラクに通過。日が昇り、山荘に作ってもらった朝食代わりのお弁当を半分食べた。気温が上がり、このままうだるような空気になったら困るな、と不安要素が一つ増える。

約2時間後、越中沢岳に到着。眺め最高。さて、ここからだ。ぐっと下って、ちょっと上がって、またぐっと下って、ちょっと上がるとスゴ乗越小屋に着く。まずは、この小屋が目標だ。

下り道は急傾斜で石ごろごろ。向かいの登り坂に、白い雪渓と赤い屋根のスゴ乗越小屋が見えているのだが、歩いてても歩いてても、一向に近づいてくる感じがしない。途中大きな荷物男性ソロ3名に抜かれる。彼らはするすると下りて、さくさくとスゴ乗越小屋への登りを歩いていった。早くあの登り道の雪渓に辿り着きたい。だんだん膝も気になってきた。

ようやく下り終わって、スゴ乗越。暑い。鍋底にいるみたいだ。早く雪渓ください！



なかなか近づかない薬師岳方面

あと少し、と気持ちを奮い立たせて、小屋までの登り坂に取りつく。途中でテントを担いだ3人組とすれ違い、薬師への道の様子を聞いてみた。距離があっても、歩きやすく整備されていれば、先に進む希望が持てる。だが、岩が多い、雪渓が3つあると少し心配そうな顔をされ、気持ちが萎える。彼らはこれから五色が原までだそうだ。大変な道だが、この時間から大丈夫かなと、後ろ姿を見送る。

先に進むと、道の脇に憧れの雪渓がすぐに現れた。日陰のない道で、ほぼ唯一の涼感ポイントだ。この坂を登り切れればすぐ小屋かと思いきや、また下って登らないといけない。スゴ乗越の手前からはわからなかった窪地だった。がっかり。でも行くしかない。行くんだ、行くんだ。黙って歩くが、頭がぼーっとしてスピードが急速に落ちたところでハッとする。おかしい。熱中症の始まりか。

そして雪渓からなんと1時間もかけ、11時前にスゴ乗越小屋に到着。中に入って休みたかったが、通過するだけの人を入れる場所はないらしい。日陰は入り口近くの小さな水場だけ。ジュースは冷やしてあったので、とにかく1本買って、この日陰で一息入れる。

今日の行程はここでほぼ半分だ。時間的には遅れ気味だが、無理というほどでもない。が、二人とも完全に停滞する気持ちに傾いた。今夜は小屋に空きがあるとのこと。ここまでにしましょう。1日延長！

もし無理に先に進んでも、ただの苦行となり、何も覚えていないだろう。ただ、これほど消耗したのは、道の険しさと暑さだけでなかった。食欲がわかず、お弁当は半分しか食べなかったし、行動食も取らなかった。日陰がなく、ゆっくり休めなかったことで、水分も十分とらなかった。これは失敗だった。

少しすると、薬師岳方面から、テントを担いだソロ男性がやってきた。やはりあまりの暑さに、本日はここで終了することにしたらしい。そして長旅男性も到着。今日はここに泊まることにしたと話す。この暑さじゃそれが正解だよと、一緒に安心してくれたように見えた。

宿泊が決定したので、小屋の人が、中に入って休んだらと言ってくれた。チェックインして2階に荷物を上げるが、膝がかなりいかれており、リュックを背負いながら階段を上がるのが辛くて仕方ない。

着替えて雑魚寝の居室に寝転がると、つやつやとした味わい深い天井の梁が見える。曲がった大木の表面を手斧で整えたようだ。近くの木を伐って作った小屋なのだろうか。

活気のある1階の音や声が、薄暗く静かな2階に響く。そういえばさっき、受付のお兄さんが、今日へりで物資が届いたのだと、少し興奮気味に教えてくれた。とても嬉しそうだった。この山奥ではちょっとした祭りに違いなかった。

天井を眺めながらごろごろしていると、まるでおばあちゃんちに来て、親戚がにぎやかに仕事しているのを聞いているようだ。外では、テントソロ男性と長旅男性が談笑している。のどかだ。ここに停滞することにしてよかった。暑くも寒くも、湿気もない。ただただ、気持ちが良いだけ。

15時半頃、ある男性が到着し、小屋にまた活気が出た。その人は、今朝0時半に新穂高を出て、三俣蓮華岳、鷲羽、水晶を巡り、黒部湖を渡って、五色が原経由でここに到着したのだ。それって人間の歩く速さ？今日の歩行距離はどれくらいですか、と聞いてみたら、ちらっとスマホを見て、53.x x kmと。ごじゅうさんきろ、ですと？この山の中を？こちらは五色が原からでへとへとです。でも彼は、日本の山はすいぶん歩いてきたが、北アルプスでは五色が原～スゴが一番厄介だと言ってくれた。ニコニコしながら汗を拭き、夕食が楽しみと言いながら外のベンチに座って穏やかにしているこの人は、翌朝2時半頃静かに出ていき、新穂高まで歩ききったそう。×て90 km以上。ヤマレコに記録があるので、興味のある方は探してみてください。



お世話になったスゴ乗越小屋

◆Day3

5時半過ぎスタート。今日は、シャリばてしないよう、小屋特製の特大おにぎりを2個、きちんと食べた。ちーかま2本と、200mlお茶パック付き。この取り合わせは初めてだ。いいセンスしてます。

「今日も暑いから気を付けて。太郎平で生ビールですかね！昨日、ヘリで入ってますよ、へっ！」と前日の興奮冷めやらず、ゴキゲンな小屋のお兄さんが見送ってくれた。次の補給は半月後だそうだ。

今日の私たちは、何の迷いもなく進む。ギラギラ太陽が昇ってからのスタートで早くも暑くなるが、



石ゴロゴロの道が続く。Sちゃん撮影

高度を稼ぐと、また少し涼しくなってくる。

私は登りが速く、下りが遅い。Sちゃんは登りゆっくり、下りが速いという異なるペースの二人なので、登りは私が先行、休憩しているとSちゃんが追い付いてきて、また先に行くね、というペースとなる。ただ、岩場となると状況逆転。膝の調子がますます宜しくない私は、とんとんと調子よく進めない。Sちゃんに先行してもらおう。

そのうち、朝食をとって出てきた長距離男性が追い付き、追い抜いていく。行先は同じなので、じゃ、また後でと、背中を見送る。だんだん連帯感が出てくる。

見晴らしの良い休憩ポイントに、大きな荷物を持った

テン泊のご夫婦が腰を下ろしていた。今日は雨になるんですね、それまでにテン場に着けるかなあ、と不安を口にしながらも、頑張っても間に合わないなら仕方ないや、という開放感あられる諦観が、なんだか気持ちいい。

岩場が続く。浮き石に乗らない、バランスを崩してひっくり返らない、と考えると足が出ない。どんどんスピードが落ちていく。一方のSちゃんはリズムカルにとんとん行く。遅くなってごめん。

ようやく北薬師岳に到着。少し離れた場所で長距離男性が待っていてくれて、おーいと声をかけてくれたので、そちらに行って一緒に風景を楽しむ。

「あそこに上の廊下が見える。行ってみたいんだ」「あの平らな所が、なかなか行けない湿地帯。昔は同じくらいの標高をつないで到達できる道があったらしい」（後で地図を見たら薬師見平のようだ）などなど教えてくれ、一足先に薬師岳に向かっていった。先程のテント夫婦も先に行った。私は昨日の反省から、しっかり水分とエネルギーを補給。

日焼け止めも補強し、遅れて出発。

先行した彼らが、少し先で足を止めている。追いつくと雷鳥の親子がいて、ひながハイマツの間を出たり入ったりして遊んでいた。人が通ると脅かしてしまうので、去るのを待っていたとのこと。だが、みんな十分観察したので、横を通らせてもらうことにした。親子はさっとハイマツの茂みに隠れた。

さらに岩場は続く。バランスを崩すと、左のカーブに滑り落ちそうな細尾根を慎重に歩く。



薬師岳からの眺め

そして、ようやく薬師岳山頂に到着！標高 2926m。これまで通ってきた山は、すごく大変な割に、名前はマイナーな山ばかりだったと S ちゃんがぼやいていたが、3 日目にして、やっとメジャーネームに到達。これで「どこに行ってきたの」と聞かれても、「百名山の薬師岳」と堂々答えられる。

達成感とさわやかな風を味わいながら、周りの景色を眺める。鷲羽、水晶、赤牛岳をつなぐ尾根が目の前に広がっている。実にいい気分。だが、大きな雲が出てきた。そろそろ移動しよう。

下りはこれまでに比べれば緩やかだ。のんびり歩いて、薬師岳山荘に到着。ミネラルウォーターを買う。冷たくてごくごく飲んでしまう。腹ごしらえもして、また下る。

薬師平の木道のベンチで休んでいたら、地元の登山者に声をかけられた。折立の駐車場に車を停めて、日帰りで薬師岳だそうだ。今年はコバイケイソウの当たり年ですから、堪能していただいと、にこやかに言葉をかけてくれた。

地図で見ると、今日泊まる太郎平小屋まであと少しなのだが、沢筋を激しく下る道が長い。膝も気持ちも消耗する。ようやく薬師味のキャンプ場に到着、水を補給しつつ少し休憩…しようとしたら、雲が厚くなってきた。ゆっくりしている暇はなさそうだ。

遠くで雷が鳴っているのが聞こえる。もう一山越えて、木道を歩けば小屋だ。遅い下り道のスピードを合わせてくれた S ちゃんを置き去りにする勢いで登る私。ヒトデナシ。約 20 分早足で歩いて、ようやく本日のゴール、太郎平小屋に到着。

ここは電波が通じる。シリウスに 1 日延ばしたことを連絡していなかったので、急いでメールして、ほっと一息。この間、S ちゃんがチェックインしてくれた。いつも本当にありがとうございます。

空がゴロゴロ鳴っている。個室がもらえ、部屋で疲れを取りながらおしゃべりしていると、激しい雨になった。空の様子を見つつ、着替えたり乾燥室を使ったりしているうちに、夕食の時間になった。綺麗に盛り付けられた夕ご飯。この 3 日間、どの山小屋の食事もう工夫があっておいしくいただけ。本日もありがたく完食。

夕食後、雨が上がり、空が明るくなってきたので、外に出た。テレビで見たことのあるカメラマンが率いる登山ツアーの撮影散歩に、サンダル履きのまま勝手について行き、裏の太郎山から夕暮れの空を眺めた。



雨上がりの太郎山から

◆Day4

今日は朝食をとってから出発。相変わらず天気が良さそうだ。

一足先に食事を終えた長距離男性は、今日から高天原方面に行くはずだ。食堂を出るときに「気を付けて」と声をかけた。良い旅になりますように。温泉、楽しみですね。我々も 6 時頃小屋を発つ。今日は約 1000m 下る。しんどい標高差だが、午前中には終わる。バスが 12 時発なのである。

前半は右に薬師岳の稜線を見ながら、脚にやさしい木道や整地された道を下る。行く手から、洗い立てのきれいなウェアを着てパリッとした登山客が続々やってきた。なんだか嬉しそう。ワクワクが伝わってくる。対する私たちは 4 日間汗だけで、だいぶくたびれてきた。

三角点を過ぎたあたりから、樹林帯に入る。もう薬師岳も見えなくなった。さよなら北アルプス。

傾斜が増し、脚にやさしくない道に変わっていく。スピードが落ちる私を励まし続け、柿の種を食べながら、ゆっくり先を歩いてくれるSちゃん。本当にありがとう。

途中、お客さんを連れてにぎやかな山岳ガイドさんとすれ違い、休憩がてら会話した。室堂から来たと話すと一瞬考えて、そうか、という顔をする。私も気づいた。そうか、もう室堂は遠くなったんだ。

だいぶ下界に近づいたようだ。スマホの地図を拡大しながら、「あと等高線5本分！」とSちゃんが声をかけてくれる。よし、頑張るぞ！そして、ついに折立に下山。地図では3時間10分の下り道が、私の膝のせいで4時間半近くかかっている。

まずは駆け付け1本、自動販売機でファンタグレープ。靴底とストックを洗い、バス停前の地面に腰掛けて靴を脱ぎ、靴下も脱ぐ。解放感！

バスは空いていて、約2時間で富山駅到着。入浴できる場所が近くに見つからず、あきらめた。代わりにきれいな駅ビルの回転寿司で、打ち上げの昼食。しみじみ美味しかった。

今回、途中で予定を変えることとなった原因はいくつか考えられる。コースの下調べが不十分だったこと、食料・水分補給が不十分だったこと、そして私に限れば、必要以上に荷物が重かったこと、トレーニング不足、膝対策も不足。不足だらけだ。次回に活かしたい。

一方で、このルートは北アルプスの中でもかなり厳しいルートだったこと、また最後にすれ違ったガイドさんが、この道を歩けるなら、技術的にはジャンダルムも行けると言ってくれたことは、大きな自信になった。

道は険しかったけれど、きちんと整備されていた。泊った山小屋は全て親切で素晴らしかった。エスケープルートのない道で、知らぬ者同士、連帯感を感じながら歩けたことも楽しかった。大きな荷物を担ぎながら、何日もかけて上高地まで行くつもり、という人もちらほらいた。深い自然の中にありながら、山を愛する人の手で洗練されてきた北アルプスという大きな遊び場が、日常を離れ、自然に包まれ、自分を解放したい沢山の人々を集めているのだと思った。

下山後、会のNさんから、立山から槍ヶ岳までのこのルートは「ダイヤモンドコース」というのだと教わった。あと半分残っている。いつか挑戦したい。

最後に、この長旅の間、全ての面で助けてくれたSちゃん、感謝してもきれません。ありがとうございました。

《コースタイム》

- 7/16 (金) 室堂 (8:15) — ノ越 (9:17~9:33) — 富山大学立山研究所 (10:15~10:20)
— 獅子岳 (12:40) — ザラ峠 (13:23~13:40) — 五色が原山荘 (14:27)
- 7/17 (土) 五色が原山荘 (3:27) — 鷲山 (4:03~4:13) — 越中沢岳 (6:14~6:37) —
スゴノ頭 (8:23~8:40) — スゴ乗越 (9:22~9:38) — スゴ乗越小屋 (10:44)
- 7/18 (日) スゴ乗越小屋 (5:35) — 間山 (6:56~7:11) — 北薬師岳 (9:12~9:55) —
薬師岳 (10:56~11:42) — 薬師岳山荘 (12:27~12:52) — 薬師峠キャンプ場
(14:16~14:28) — 太郎平小屋 (14:44)
- 7/19 (月) 太郎平小屋 (6:11) — 三角点 (8:38~8:56) — 折立 (10:39)

(終)